



YOTSUBA NO TAYORI

山の田地区まちづくり協議会 四つ葉のたより 検索

四つ葉のたより

第 11 号

2019年4月発行

発行 山の田地区まちづくり協議会

〒751-0834 下関市山の田東町 4-13 (北部公民館 2F)
TEL : 083-250-7955 ・ FAX : 083-250-7965
ホームページ : <http://yotuba2017.sakura.ne.jp>



地域力アップ事業

まちづくり協議会は、地域力アップ事業として、四季折々の花が咲き蝶が飛び交う美しい街づくりを目指して、今年フジバカマ(藤袴)の花を咲かせる活動に挑戦します。

地区内の連合自治会及び自治会に呼び掛けて、自治会にある公園や道路から見える家庭の庭に苗を植えていただくことです。2月10日(日)午後1時から、管内の自治会から参加した41名の人が豊浦町にある「リフレッシュパーク豊浦」で、美しい花を咲かせる基本である植付け・手入れ・管理などについて講習を受けたのち、リフレッシュパーク内の畑で、苗を掘り起こし約600株をポットに移して持ち帰りました。

この苗は、地区の自治会で育苗されて、5月から6月にかけて株分けや差し穂することにより、約3,000株を超える数の株に増やしたのち、植付け育てられます。

フジバカマの花が咲く9月頃には、山の田地区の多くの場所でアサギマダラの飛び交う姿が身近に見られることでしょう。

花の色は、淡いピンクや白でアサギマダラが好む花として有名で、バタフライガーデンには、必ずと言っていいほど植栽されている草花です。フジバカマは秋の七草のひとつであり、万葉の昔から親しまれてきたなじみ深い植物で、キク科の多年草です。



アサギマダラの神秘

【浅葱斑】

アサギマダラは、初夏から秋半ばまで身近に見かける
黒と褐色の模様、透けるような薄い浅葱色の
斑模様がある蝶です。



この小さな蝶が日本列島を縦断し、
さらに南の沖縄や台湾まで述べ2,200キロ以上を
飛んで行くのです。
そして翌年春、その逆コースを飛んで日本に渡って来ます。
その驚異の飛翔2,200キロ・不思議な旅の途中、
中継滞在地としてその美しい姿で山の田地区全体の
フジバカマの植込みを飛び回るといふ、
楽しい夢と話題のある街になるよう期待しています。

あさぎ〔浅葱〕〔浅黄〕色とは…

辞書には、緑がかった薄い藍色、うすあお、しらあおなどの説明があり、薄青色の透きとおりそうな部分色といえます。

平成30年度 勤労婦人センターまつり

2月23日(土)、24日(日)に北部公民館、勤労婦人センターにおいて、
下関市勤労婦人センターまつりが行われ、センターでの学習の成果が
披露されました。また、「はまぐりで作るおひなさまづくり」という
手作り体験教室やバザー、お茶席などで終日にぎわいました。





地元の企業を知っていますか!!

旧市内唯一の酒蔵・下関酒造株式会社



2月12日(火)18時30分から北部公民館において、下関酒造(株)代表取締役の内田忠臣氏をお招きして「下関酒造の歴史」「下関酒造のチャレンジ」「町おこし」についての講演会が開催されました。

下関酒造の歴史は、「自分たちの米で酒を造ろう」との思いで、旧生野村(幡生・武久・大坪・後田・椋野・藤ヶ谷)の農家の人達により大正12年12月15日に設立された会社です。

地理的な面と酒造りに適した水脈のある現在地に酒蔵が建てられたそうです。

昭和年代まで酒米を蒸すのに使われたレンガ造りの煙突は、現在は、シンボル・モニュメントとして愛されています。

酒造りに必要な水は、地下160mから湧き出している中軟水と呼ばれる水質で、優しく柔らかな味わいとキレの良い余韻を楽しむ日本酒を仕込むのに最適な水とのことでした。

また、酒造りの原料となる酒米「山田錦」他は、創業精神でもある地元下関産の酒米を使い、純米吟醸酒がコンテストで「金賞」を受賞したことは、高品質の酒米づくりを目指す農家の励みとなっています。

60名の参加者の多くは、初めて聞く下関酒造の歴史や経営理念、大吟醸酒・純米大吟醸酒などの酒の種類・分類、蔵元の入り口に吊下げられた「杉玉」の説明を聞き、大変盛り上がりしました。



伝統文化行事を大切にしよう!

どんど焼き

1月14日(月)生野神社で恒例の「どんど焼き」行事がありました。山積みされたしめ縄・門松の正月飾りや書初めなどに宮司が点火すると、パチパチと大きな音を立てながら炎は煙とともに空に向かって大きく燃え上がりました。「どんど焼き」は小正月の行事として、全国各地に伝わる火祭りです。

「どんど焼き」の炎にあたり、火で焼いた餅やすめるめなどを食べて楽しんだりして、一年間健康に過ごせるよう無病息災、家内安全、五穀豊穡を願う行事です。

「どんど焼き」の炎は、地域が安全で平穏でありますようにと山の田地区の氏神様である生野神社の境内で、一日中燃え盛りました。



節分祭と福引大会

2月3日(日)は節分祭の日、暦の上で冬と春を分ける冬の終わりです。春の初めの厄払いの意味で「鬼は外」「福は内」の掛け声とともに豆まきを行う行事です。

古くから伝わる伝統行事で、歳の数だけ豆を食べると一年中「健康(まめ)」で福をつかむといわれます。

また、一年間お守りいただいた御神札に感謝して焼納し、新しい御神札を受けて祭ります。鬼は、夜家々を回って、災いを起こすと言うのですが、イワシの臭いとヒイラギのとげが嫌いです。

節分のこの日、生野神社には多くの人が集まり、「福引大会」と「豆まき」行事を楽しんでいました。



まちの話題

1月20日

つきたてのお餅をみんなで美味しく頂きました!!

1月20日(日)山の田地区社会福祉協議会と山の田地区自治連合会による「ふれあい餅つき大会」が行われました。

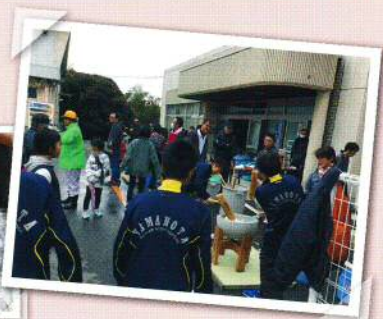
前日から餅米を洗米し、水に浸し、臼や杵などの器財を洗浄・準備して、当日は8時30分から蒸しあげた餅米を臼に移して、大人から子供までみんなで楽しく餅に搗き上げました。

搗いた餅をみんなで丸めたり、きな粉

餅、雑煮、ぜんざいなどにして沢山食べました。

参加者は「お餅が大好きで、とてもおいしかった」と笑顔で話していました。

恒例の「ふれあい餅つき大会」は大成功でした。



2月15日

第10回いくのサロン開催 (生野町2丁目自治会)

2月15日(金)13時から14時30分、生野町2丁目町民館で「いくのサロン」を開催しました。

第1回を平成25年6月7日に開催、今回が10回目となりました。

毎回、山根徹さんの進行で、歌手のエピソードを聞き、昭和45・46年のヒット曲(大阪万博の頃)、黒ネコのタンゴ・わたしの城下町・雨がやんだら・また逢う

日までなど10曲を映像を見ながら、蓄音機の曲に合わせて、参加者全員で歌い、その後毎回、健康維持対策等々の講演を実施されますが、今回はラジオ体操を山口弁の進行により全員で実施、歌い・笑いあいの楽しい時間を過ごし、参加者も次回を楽しみに解散しました。

今回の参加者は25名でした。

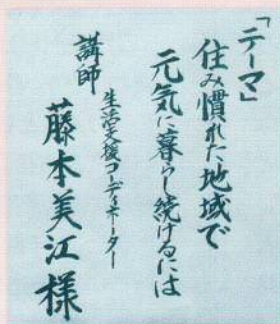


3月2日

大学町で会食会を開催 (大学町地区社会福祉協議会)

3月2日(土)、大学町集会所で高齢者を中心として、毎年開催している会食を、地域生活支援コーディネーターの藤本美江さんの「住み慣れた地域で元気に暮らし続けるには」をテーマにした講話を聴いた後、会食を行いました。

参加者は57名でした。



3月3日

にし^のりよお 西野旅峰講演会 (青少年部会)

3月3日(日)13時30分から北部公民館において、「世界を旅して出会った子供たち&教育の力」と題して、下関出身の西野旅峰さんの講演会がありました。

世界各地を自転車で、北米大陸の縦断をはじめ、ヨーロッパ・アフリカ縦断、その後、仕事をしながら、ウガンダの難民を取材した、稀有な体験に基づき出会った子供たちの教育がいかに大切であるか、子供たちがいかに学ぶことに飢えて

いるか、の実体験を話す講習会で、参加した生徒や父兄は、興味深く聞き入っていました。

